

安全データシート

作成日 2016年 5月11日

改訂日 2019年 5月23日 1/4頁

SDS No. 5010-0147

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : InertSep AL(AL-N, AL-A, AL-B)
提供者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
製品コード : 5010-61360~5010-61368、5010-61380~5010-61388、5010-61400~5010-61408、
5010-63361~5010-63363、5010-63381~5010-63383、5010-63401~5010-63403、
5010-65360~5010-65362、5010-65380~5010-65382、5010-65400~5010-65403、
5010-69012~5010-69014、5010-27493、5010-
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.) : 5010-0147
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(吸入;肺)

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肺の障害

注意書き

[安全対策]

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

P264 取扱い後は手をよく洗うこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

[応急措置]

P304+P340 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P314 気分が悪いときは医師の手当てを受けること。

[保管]

P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

[廃棄]

P501 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 化学物質
化学名(又は一般名) : 酸化アルミニウム
別名 : Aluminium oxide、Aluminaなど
含有量 : >99%
化学式 : Al₂O₃
分子量 : 101.9
官報公示整理番号 : 化審法:1-23
安衛法:設定されていない
CAS RN : 1344-28-1
危険有害成分 : 酸化アルミニウム

4 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、安静保温に努めること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
- 目に入った場合 : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。こすると眼球が傷つく恐れがあるためこすらないこと。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、医師の手当てを受けること。可能であれば吐かせること。
- 暴露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
- 急性症状及び遅発性症状の
最も重要な兆候症状 : 吸入により咳など呼吸器系の賞状が生じる場合がある。
眼や皮膚への接触により発赤や刺激などを生じる場合がある。
- 医師に対する特別な注意事項 : ばく露の程度によっては、定期健診が必要である。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

- 消火剤 : 周辺に適した消火剤を用いること。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 本製品は不燃性であるため、周辺火災に適した消火剤を用いること。
火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、粉塵等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
こぼれた場所は滑りやすいために注意する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 回収、中和 : 漏出した内容物は、掃き集めて空容器に回収する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 強酸化剤、酸性物質との接触を避ける。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
眼、皮膚への接触を避けること。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。
使用後は容器を密閉すること。
吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管

- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良い場所で密閉して保管する。
 混触危険物質 : 強酸化性物質、強酸化剤、強塩基など
 安全な容器包装材料 : ガラス、プラスチックなど

8 ばく露防止措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
 取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- 管理濃度 作業環境評価基準 : 設定されていない
 許容濃度
 日本産業衛生学会 : 吸入性粉塵 0.5mg/m³、総粉塵 2mg/m³(第1種粉塵)
 ACGIH TLV : TWA 1mg/m³
 OSHA PEL : TWA 15mg/m³(total)、TWA 5mg/m³(resp)
- 保護具
 呼吸器の保護具 : 保護マスク、防塵マスク
 手の保護具 : 保護手袋
 目の保護具 : 保護眼鏡
 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴
- 適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。
 取り扱い後は手、顔を良く洗うがいをする。

9 物理的及び化学的性質

- 形状 : 粉末
 色 : 白色
 臭い : 無臭
 pH : データなし
 融点 : 2053～2072℃
 沸点 : 2977～3000℃
 引火点 : 不燃性
 爆発範囲 : 不燃性
 蒸気圧 : データなし
 蒸気密度(空気=1) : データなし
 比重 : 3.97～4.0
 溶解性 : 水に不溶。
n-オクタノール／水分配係数
 log Po/w : データなし
 自然発火温度 : データなし
 分解温度 : データなし

10 安定性及び反応性

- 化学的安定性 : 適切な保管条件下では安定。
 危険有害反応可能性 : 適切な保管条件下では安定。
 避けるべき条件 : 粉塵の発生、拡散。混触危険物質との接触
 混触危険物質 : 強酸化剤、酸性化合物
 危険有害な分解生成物 : データなし
 推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

11 有害性情報

- 急性毒性(経口) : ラット LD>5000mg/kg(IUCLID, 2000)
 急性毒性(経皮・吸入) : データなし
 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : データなし
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : データなし
 皮膚感作性及び呼吸器感作性 : データなし

生殖細胞変異原性	: in vivo変異原性試験が実施されておらず、in vitro変異原性試験においてもエームズ試験(陰性)のみである。
発がん性	: ACGIHでA4に分類されている。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 上気道刺激性(ICSC(2000))の記載がある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 酸化アルミニウムの職業暴露により、肺に腺維症が認められた(EHC(1997))との記載がある。
吸引性呼吸器有害性	: データなし
1 2 環境影響情報	
生態影響	: データなし
残留性/分解性	: 水に溶けないため、水中の挙動は不明。
生態蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品はオゾン層破壊物質に該当しない。
1 3 廃棄上の注意	
残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
1 4 輸送上の注意	
国連番号	: 非該当
国連分類	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないこと確認する。 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。
1 5 適用法令	
毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No. 189
化管法	: 非該当
化審法	: 既存物質
消防法	: 非該当
船舶安全法(危規則)	: 非該当
航空法	: 非該当
海洋汚染防止法	: 非該当
大気汚染防止法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3) No. 44
土壌汚染対策法	: 非該当
じん肺法	: 粉じん(法第2条、施行規則第2条 別表粉じん作業)【アルミナ】
1 6 その他の情報	
引用文献等	化学品安全管理データブック、化学工業日報社 16918の化学商品 化学工業日報社(2018) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP) 航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。